

居住環境に対する満足度と生活利便施設までの移動時間の関係

香川高等専門学校 学生会員 ○伊賀類 香川高等専門学校 正会員 今岡芳子
香川高等専門学校 正会員 宮崎耕輔

1. はじめに

近年の住宅の水準向上に伴い居住環境に関する要件は多様化しつつあり、中でも、居住環境の利便性の高さは、人々の要求が最も集まると指摘されている。また、利便性の中でも特に生活利便施設や公共交通機関へのアクセスのしやすさ（アクセシビリティ）は、居住環境に対する満足度に影響を与え、その関係性について研究が進められている。しかし、居住環境に対する満足度とこれらの施設までの移動時間との関係性についての研究はあまり見られない。

そこで、本研究では、生活利便施設や公共交通機関までの移動時間に着目し、居住環境に対する満足度との関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

生活利便施設や公共交通機関を利用するときに、どの交通手段を利用しているのかについて把握した。つぎに、居住環境に対する満足度と、利用交通手段別にみた移動時間でクロス集計を行った。併せて、独立性の検定を行い、居住環境に対する満足度と、生活利便施設や公共交通機関までの移動時間に関係性があるかについて検証した。なお、香川県高松市をケーススタディとした。

3. 本研究で用いたアンケート調査の概要

本研究では、2019年12月25～27日に実施した、18歳以上の高松市居住者を対象としたWebアンケート調査の回答結果を用いた。有効回答数は626件であった。主な質問項目は、個人属性、生活満足度やQOL評価に関する項目、住み替え意識等であった。

4. 居住環境に対する満足度と移動時間の関係

4.1 施設ごとの利用交通手段の把握

生活利便施設や公共交通機関を利用するときに、どの交通手段を利用しているのかについて整理した(図1)。なお、分析では、対象とした施設を普段から利用している人を対象とした。図1より、日常買い

物先（ここでは、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等を示す）、医療施設、金融機関を利用するとき、自家用車を利用する人の割合が高かった。また、バス停、駅を利用するとき、自家用車を利用する人の割合が低く、徒歩、自転車を利用する人の割合が高かった。

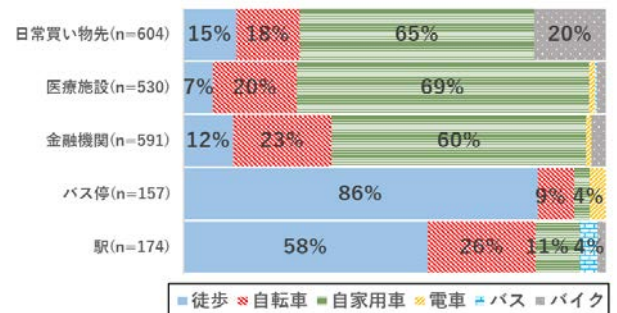


図1 施設ごとの利用交通手段

4.2 居住環境の満足度と移動時間のクロス集計

つぎに、居住環境に対する満足度と、利用交通手段別にみた生活利便施設や公共交通機関までの移動時間でクロス集計を行った。

(1) 日常買い物先

日常買い物先に着目すると、利用交通手段が徒歩、自転車、自家用車において、移動時間が短いほど、「満足」と「やや満足」を合わせた割合が増え、満足度は高くなった(図2)。独立性の検定を行った結果、自転車について、危険率5%以下の確率で統計的に有意となった。以上より、日常買い物先までの自転車による移動時間と、居住環境に対する満足度は、関係性があることがわかった。

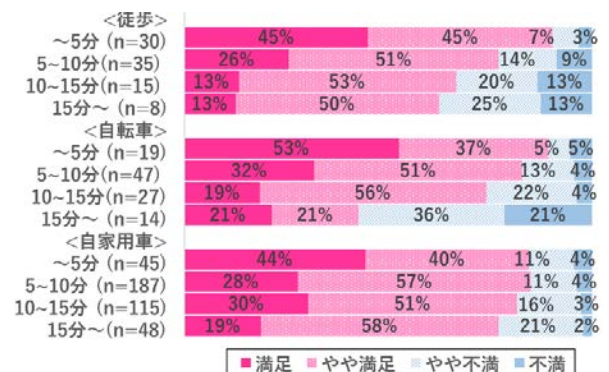


図2 日常買い物先までの移動時間と満足度

(2) 医療施設

医療施設に着目すると、利用交通手段が自転車、自家用車において、移動時間が短いほど、満足度は高くなった(図3)。独立性の検定を行った結果、自家用車について、危険率1%以下の確率で統計的に有意となった。以上より、医療施設までの自家用車による移動時間と、居住環境に対する満足度は、関係性があることがわかった。

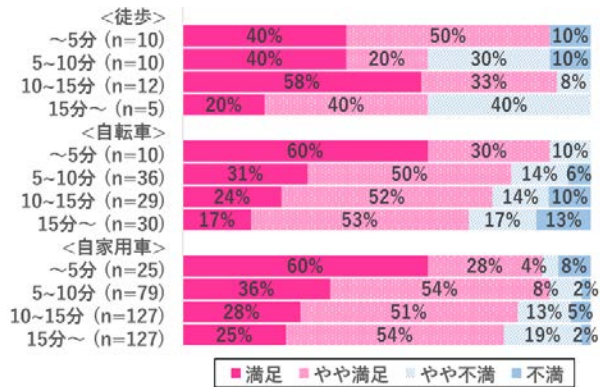


図3 医療施設までの移動時間と満足度

(3) 金融機関

金融機関に着目すると、利用交通手段が徒歩、自転車、自家用車において、移動時間が短いほど、満足度は高くなった(図4)。独立性の検定を行った結果、徒歩、自転車について、危険率5%以下の確率で統計的に有意となった。以上より、金融機関までの徒歩、自転車による移動時間と、居住環境に対する満足度は、関係性があることがわかった。

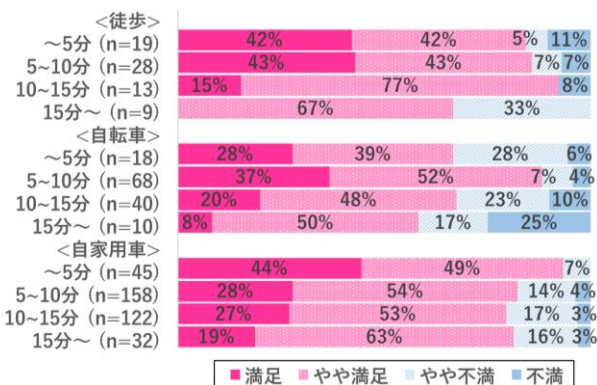


図4 金融機関までの移動時間と満足度

(4) バス停

バス停に着目すると、利用交通手段が徒歩においてのみ、移動時間が短いほど、満足度が高くなった(図5)。独立性の検定を行った結果、全ての利用交通手段について、統計的に有意な差はみられなかった。以上より、バス停までの移動時間と、居住環境に対する満足度との間に、関係性があるとはいえないこ

とがわかった。

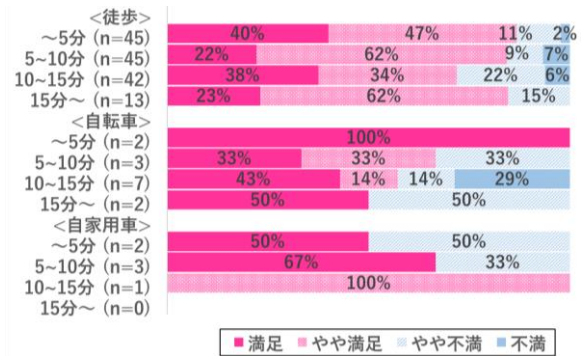


図5 バス停までの移動時間と満足度

(5) 駅

駅に着目すると、利用交通手段が徒歩においてのみ、移動時間が短いほど、満足度が高くなった(図6)。独立性の検定を行った結果、全ての利用交通手段について、統計的に有意な差はみられなかった。以上より、駅までの移動時間と、居住環境に対する満足度との間に、関係性があるとはいえないことがわかった。

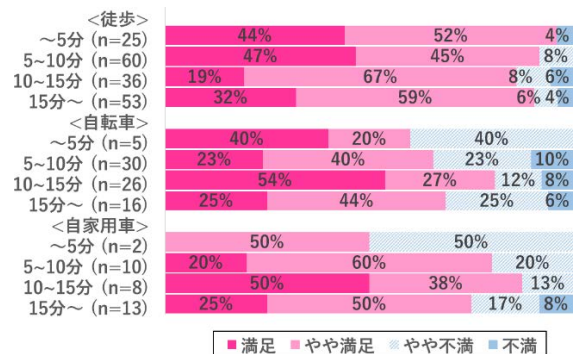


図6 駅までの移動時間と満足度

5. まとめ

本研究では、居住環境に対する満足度と、生活利便施設(日常買い物先、医療施設、金融機関)までの移動時間との間には、利用交通手段によっては、関係性あることを明らかにした。一方で、公共交通機関(バス停、駅)については、関係性がみられなかった。今後は、生活利便施設までの移動時間が、居住環境に対する満足度に影響を及ぼす要因であるかについて、明らかにしていきたいと考えている。

謝辞

本稿は、2018年度一般財団法人百十四銀行学術文化振興財団の助成を受けたものである。ここに記して謝意を表す。